

令和5年度(2023)第73回“社会を明るくする運動”作文コンテスト
中学生の部【最優秀賞】【沖縄県最優秀賞】



「悩んでいる君」に気づける社会へ

城東中学校1年 下地 杏梨

あなたには、今悩みを打ち明けられる人はいますか。悩みを打ち明けるといことは、人に弱さを見せるようで、難しいと言う人もいるかも知れません。でも私は、悩みを打ち明けられるような信頼できる「人と人との関係づくり」が、今私たちが生きている社会を、より良くしていくことになると思います。

毎日のようにニュースでは、犯罪のニュースが報道されています。「以前から、何か起こすかもしれないと思っていた」というケースもあれば、「まさかあの人だ」という思いがけない人が、取り返しのつかないことをしてしまうケースも少なくありません。どちらのケースにしても、なぜこのようなことが起きてしまったのか。気づいていたら止めることができたのかもしれないと胸が苦しくなります。

私は以前、友達との関係がうまくいかず、悩んでいたことがありました。「自分で何とかしなきゃ」と、家族や先生にも話せず、どうしていいかわからず、学校からの帰り道は涙をこらえ、うつむきながら歩いていました。

そんな毎日をすごしていたある日、いつも登下校の時に挨拶する地域のおばあちゃんが「杏梨ちゃん、どうしたの。何かあったの。」と、優しく声をかけてくれました。その途端、私はこらえていた涙があふれ、涙を手でぬぐいながら、今までのことをすべて話しました。その時おばあちゃんは、私の話を柔らかな表情で「うん、うん」とうなずきながら聞いてくれました。ただ話を聞いてもらっただけで、ガチガチに固まっていた私の心は溶かされ、安心しました。何だか、久しぶりに呼吸ができた気がしました。私は、そのおばあちゃんのおかげで、もう一度友達と話してみようと勇気をもらい、立ち直ることができました。今では友達との関係も良好で、毎日充実した日々を送ることができています。

最近、私は犯罪や事件のニュースを見た時、あのおばあちゃんのことを思い出しました。どうしておばあちゃんは、私の「悩んでいる姿」に気づき、声をかけてくれたのだろうかと考えてみました。私たちの住んでいる地域では、地域の人達で夏祭りを開催し、子どもからお年寄りまで、楽しい時間を過ごすイベントがあります。また、交通安全のボランティアとして、地域の方々が毎朝笑顔で「おはよう、今日も元気にいってらっしゃい」と、登校する際に挨拶をしてくれます。他にも交番の警察官の作ってくれたお好み焼きをみんなでおいしくいただくこともあり、地域の方々と触れ合う機会が多くある地域です。きっと、この沢山の交流のおかげで、地域の子どもは、みんなで見守ろうという気持ちが深まり、私の「悩んでいる姿」に気づき、声をかけてくれたことにつながったのだと思いました。

悩みを打ち明けるといことは、簡単なことではないのかもしれませんが。そんな人ほど、自分の気持ちを素直に伝えられないまま、周りの目を気にして我慢して笑っている。そうしているうちに、我慢していることに慣れ、ある日突然、何かをきっかけに心が壊れてしまいます。「どうして気づいてあげられなかったのだろうか」と、後悔しても遅いのです。

人と人の関係は、家族だけでなく、地域で交流する場を作り、互いに相談し合える仲を築くことはもちろんですが、近くにいる相手を気にかけることが第一歩だと思います。私の悩んでいる姿に気づいてくれたおばあちゃんのように、「どうしたの」という一言をかけることが、当たり前のようにできる人が増えれば、犯罪や非行のない明るい社会を創ることにつながります。目の前で泣いている人だけでなく、いつも笑っているあの子にも、心の中で秘めている何かがあるかもしれません。でも、誰かの相手を気にかける一言で、大きなことにつながる小さな火種を消すことができると、私は思います。

私の悩んでいる姿に気づいて、声をかけてくれたおばあちゃんのように、私も声をかける勇気、相手を気にかける優しさを持った人になりたいです。そして、地域の一員として見守れていることに感謝し、地域のために私ができることを探していきたいです。それが、悩んでいる人に「一人じゃない」と伝えるきっかけにもなると思います。中学生の私にできる小さなことが、社会を明るくする一歩になることと信じて行動していきます。